



有明高専だより

第96号
1998.10



九州地区高専体育大会
卓球 男子ダブルス 荒尾・前田組

九州地区女子バスケットボール交流試合

九州地区・全国高専体育大会	2
シリーズ 研究室訪問	5
シリーズ 人物・いま	6
中学校訪問	7
第20回体育祭	8
海外出張報告	11
公開講座	12
夏期実習報告	13
シリーズ クラブ紹介	14
学生参加行事	15
ロボットJリーグ・留学生歓迎会	16



第35回

九州地区高等専門学校体育大会

平成10年7月17~19日 担当校 都城高専/鹿児島高専/八代高専

★陸上競技

総合	6位
男子4×100mR	1位 森(5M)・染岡(1A) 徳永(3C)・山田(4E)
男子100M	1位 山田(4E)
男子走高跳	2位 河野(3E) 3位 森(5M)
女子800M	3位 河内(2I)
女子砲丸投	3位 前田(4A) 3位 澤村(2A)

★ソフトテニス

団体戦	予選リーグ敗退
男子個人戦	2回戦敗退
女子個人戦	1回戦敗退

★バトミントン

団体戦	予選リーグ敗退
男子シングル	3位 吉開(3C)
男子ダブルス	3位 吉開(3C)・板橋(3I)

★水泳

総合	1位
男子800M自由形	3位 高井(3E)
男子400Mメドレー	2位 紺井(3C)・板橋(3A) 安松(5M)・北島(4E)
男子200M個人メドレー	3位 平山(1M)
男子200M背泳	3位 紺井(3C)
男子400M自由形	1位 安松(5M)
男子100M背泳	2位 紺井(3C)
男子100M自由形	3位 北島(4E)
男子100Mバタフライ	3位 平山(1M)
男子400Mリレー	2位 安松(5M)・北島(4E) 平川(4E)・紺井(3C)
女子100M自由形	2位 曽我部(3A)
女子50Mバタフライ	1位 曽我部(3A)

★ハンドボール

予選リーグ敗退

★硬式野球

2位 (対北九州高専)

★バスケットボール

予選リーグ敗退

★卓球

予選リーグ敗退

団体戦

男子シングルス

男子ダブルス

★剣道

予選リーグ敗退

団体戦

個人戦

★サッカー

3位

★柔道

予選リーグ敗退

団体戦

個人戦90kg超級

★バレーボール

2位 (対都城高専・久留米高専)

★テニス

3位

団体戦

男女個人戦

第28回

西日本地区高等専門学校弓道大会

平成10年7月23日 担当校 熊本電波高専

女子団体の部 2位



第33回

全国高等専門学校体育大会

平成10年8月1~10日 関東地区

★陸上競技

男子4×100mR	3位 森(5M)・染岡(1A) 徳永(3C)・山田(4E)
男子100M	3位 山田(4E)
男子走高跳	予選敗退 河野(3E)・森(5M)

★水泳

男子800M自由形	予選敗退 高井(3E)
男子400Mメドレー	予選敗退 紺井(3C)・板橋(3A) 安松(5M)・北島(4E)
男子200M個人メドレー	予選敗退 平山(1M)
男子200M背泳	予選敗退 紺井(3C)
男子400M自由形	予選敗退 安松(5M)
男子100M背泳	予選敗退 紺井(3C)
男子100M自由形	予選敗退 北島(4E)
男子100Mバタフライ	予選敗退 平山(1M)
男子400Mリレー	予選敗退 安松(5M)・北島(4E) 平川(4E)・紺井(3C)
女子100M自由形	8位 曽我部(3A)
女子50Mバタフライ	8位 曽我部(3A)

★バレーボール

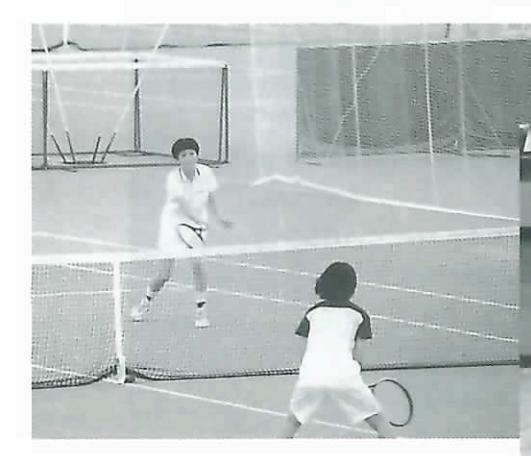
予選リーグ敗退 (1勝1敗)

★卓球

男子ダブルス 1回戦敗退 荒尾(3E)・前田(3E)

★柔道

男子個人戦90kg超級 2回戦敗退 片山(4I)



女子バスケットボールチーム 大活躍 女子バレー部

女子バスケットボールチーム

九州地区交流試合で優勝!!

4 A 坂上 美穂

7月26日、27日ここ有明高専にて女子バスケットボール交流試合が行われました。私達女子バスケットチームは昨年決勝で、惜しくも佐世保高専に敗れ、この1年間「打倒佐世保」を目標に懸命にがんばってきました。その甲斐あって、決勝の佐世保との試合では、20点差をつけ優勝することができ、本当にうれしく思っています。

思い返せば、女子バスケットチームができ、もう4年がたちます。私が入学した頃、バスケットをやりたい一心でみんなに呼びかけ、4人からのスタートでした。毎日、毎日外周を何周も走り、みんなで励ましあってがんばりました。今では、主力の3年生5人、長身の2年生3人、さらに新しく入ってきた1年生2人とまだまだ少ない人数ですが、毎日の練習に励んでいます。

今年の目標は、全国制覇です。来る11月21、22、23の3日間、東京にて全国大会が開かれることになっていますので、この試合で一つでも多くの白星を目指してがんばりたいと思います。

私達が、このように活動できるのも顧問の仁田原先生のおかげです。今度の全国大会では、仁田原先生に、優勝キップをプレゼントすることが、今、私達の目標です。



女子バレー部

6名の部員で初戦

2 A 野間口志織

7月12日、八代高専体育館で九州地区の5高専が集まって試合がありました。私達にとって初めての試合で、良い結果を得ることはできませんでしたが、自分達の持っている力を出すことはできました。

女子チームは、今年4月にできたばかりで、2年生2人、1年生4人、計6人の小さなチームです。人数は少ないので、みんなバレーを楽しみ、明るいチームです。これから大きくなつていけばと思っています。

この試合でそれぞれ自分に何が足りないのか見つけることができました。来年から女子バレーの高専大会が開催されるようになります。それに向けての課題はたくさんありますが、これから練習の中で少しずつ克服できるよう、みんなでがんばります。



研究室訪問

7月末のある日、建築学科の原田克身先生の研究室を訪問した。入口のレポート入れには“日頃勉強しないで、結果だけを期待するのは、学生の本分にもとる。”と書いてあったが、先生の学生に対する厳しい姿勢を感じた。実験室に案内されると疲労試験機3台、X線応力測定装置1台が設置され足下には実験を終えたすみ肉溶接試験体が置いてあり、いかにも研究の現場を見せていただいたという気がした。以下先生におたずねした。

どういう研究をされているのですか？

鋼材や鋼構造物の疲労の研究をしています。疲労の研究は昭和45年頃より広い分野にわたる多種の鋼構造物の疲労設計や疲労寿命・余寿命などの疲労の研究がさかんになりました。最近、鋼構造物の形式が多様化し、その規模が大きくなつきました。また使用される鋼材や溶接材料も多様化してきました。その間、疲労の研究においても様々な新しい知見が得られ、その手法としても破壊力学の適応がはかられるなど飛躍的な進歩を遂げました。

私の研究は昭和50年より始めた鋼管通しガセットプレート継手の研究を皮切りに、鋼管分岐継手、素材及びリブT形すみ肉溶接継手の疲労に関する研究を続けてきました。

疲労実験は時間のかかる実験で大変ですが、実験室が建築棟にあるので助かっています。

研究のきっかけをお聞かせ下さい

まず昭和46年に、私は有明高専に赴任しました。昭和47年に第1号の疲労試験が設置され、昭和50年に日本鉄塔工業（株）より送電鉄塔部材の疲労試験の依頼がありました。それが疲労の研究をはじめるきっかけとなりました。当時は、建築学科構造の先生方全員（玉野實先生、三宅昭春先生と私）で実験を行っていました。今考えると大変懐かしく感じられます。



現在までの研究状況はどうですか？

溶接継手の疲労強度は板厚の増加とともに低下することが知られています。Gurneyは種々の既存の実験データを再解析し、軸力、曲げの荷重モードによらず、疲労強度は主板厚の1/4乗に反比例して低下することを示しました。しかしながら、疲労強度は主板厚の1/4乗に反比例することは、解析的に裏付けられておらず、また実験においても必ずしも板厚効果が現れているとはかぎらない場合もあるようです。疲労強度に対する諸因子の影響としては残留応力の影響もあげられます。引張応力が卓越する応力比 $R = -1$ 以上では応力比（残留応力）によらず許容応力範囲は一定とされています。（鋼構造物の疲労設計指針・同解説）

そこで昨年までの研究で、この板厚効果と残留応力の影響を調べたところ板厚効果は1/4乗よりやや大きく現れ、残留応力の影響は応力比 $R = -1$ では残留応力を考慮した式で表されることがわかり、応力比 $R = 0$ では引張応力が卓越することより残留応力の影響は無視できることがわかりました。

卒研生へ一言どうぞ

なにを研究するにも同じことですが、なにが問題なのかを理解し、問題解決の能力を向上させてほしいと思います。

(聞き手 物質工学科 吉武紀道)



卒研生と一緒に

シリーズ

人物 いま



電気の資格取得を目指して

5E 伊藤 豪章

私は3年生のとき初めて『工事担任者デジタル第2種』を受けました。当時私の周りの友達は大学受験や就職など各自それぞれの目標をもってそれに向かってがんばっていました。そこで私も何かを目標にしてがんばってみようと考えたのが資格試験を受けるきっかけでした。

『工事担任者』の試験は、『電気通信技術の基礎』、『端末設備の接続のための技術』、『端末設備の接続に関する法規』の3つの試験科目があります。このうち『基礎』科目は高専の学生なら比較的簡単に対処できると思います。しかし、どうしてもわから

ないところは専門の先生方に聞いてみるといいでしょう。また、先生が特別授業を開催する場合にはそれに参加することをお勧めします。残りの“技術”と“法規”科目については自分で学習が中心になります。試験勉強のポイントは、参考書だけに頼らず問題集などで多くの過去問題を解くということです。

『工事担任者』の問題の傾向は毎年そんなに大きくは変わりません。また、過去に出題された問題が繰り返し出題されることもあります。だからある程度勉強したら問題を解き、わからないところを再び参考書で調べるようにすれば効率良く試験勉強ができます。また、合格できた人はそれだけに満足せず、もう1ランク上の『工事担任者』資格を目指して下さい。“基礎”、“法規”的範囲はあまり変わらず、“技術”がすこしむずかしくなるだけなので、前の試験勉強を生かすことができます。『工事担任者』の試験は比較的受けやすいと思います。ぜひ多くの人が試験にチャレンジしてくれることを望んでいます。

資格取得者一覧

有明高専の学生が各種の資格試験取得を目指しがんばっています。実力もつきますし就職の際とても有利です。本号では学会表彰受賞者、各種試験の科目合格も含め合格者を紹介します。これまで資格試験を受験したことのない人もぜひがんばって受験しましょう。

平成10年度第1回工事担任者

	合 格 者	科 目	合 格
アナログ1種	5E 伊藤 豪章	5E 松下 剛	
アナログ3種	5E 橋口 智悟 4E 遠藤 泰史 4E 田中 克史	5E 吉村 純一 4E 内山 大輔 4E 田中 義和 4E 林 刚志 4E 井上 博文 4E 高倉 秀利 4E 植田 麻美 4E 松尾 智志	1I 谷山 加奈
デジタル2種	4E 北島 健介		

第1級陸上無線技術士

科目合格 5E 平尾 幸一（残1科目）

情報処理技術者2種

5I 上尾 直史、上野 吉晴、西原 佐知、吉田 誠

CG検定2級

5I 井村 征智、西原 佐知、前川雅津子、石橋 和子

CG検定3級

4I 城村 歩、田中 啓弼、松本珠美江

情報処理技術者初級システムアドミニストレータ

5I 林 豊洋 3I 山崎 博之

マルチメディア検定2級

5I 石橋 和子

マルチメディア検定3級

4I 城村 歩、松本珠美江

英語検定

準2級	3E 古賀 剛 3I 栗原さやか 3I 田中 純 3A 高瀬 正次 3A 田中 紀子 3A 安田 佳代	2M 新開 隆史 2I 武末 彰 2I 田代 亜衣 2I 本多 圭介 2I 松林美穂子
-----	--	---

3級 1E 広松 敏
1I 大津 茜
1I 谷山 加奈
1I 辻 亜由美
1I 堤 由香里

工業英検

3級 3E 鍋田依一郎 4級 2A 丸山 陽子 3M 大澤 浩之 3M 緒方 康悦 3M 篠原 孝高 3M 金澤 智史 3M 木下 博 3M 久保山 正朗 3M 倉橋 義明 3M 近藤 紀幸 3M 荘 善志 3M 濱戸 俊史 3M 酒川 周平	3M 中村 圭吾 3M 横木 英司 3M 原田 博士 3M 村上 大樹 3M 吉開 健介 3M 高井 賢海 3E 渡邊 式守 4I 渡邊 豊海 5C 森 幸子 5C 武藤 由紀 5C 山本樹 絵美 5C 山本美華
---	---

学生表彰受賞者

- ◆学会賞
機械工学科 堀 隆之（日本機械学会畠山賞）
電気工学科 持永 韶生（電気学会九州支部長賞）
電子情報工学科 後藤麻衣子（電子情報通信学会九州支部長賞）
工業化学科 德永 倫子（日本化学会九州支部長賞）
建築学科 一坪 博（日本建築学会九州支部長賞）
◆建築協会賞 永松 瑞穂

シリーズ

中学校訪問

荒尾第四中学校

中学校訪問

8月初旬のある日差しの強い日の朝、荒尾第四中を訪問した。校長室に案内され、訪問者とほぼ同じ年代の、今年2年目と言われる田畠貴之校長としばらくの間お話しした。



荒尾第四中の概要

田畠 貴之 校長

新制中学ですから昭和22年創立で、去年創立50周年でした。当時生徒数は350名ほどでしたが、400から500名を推移しています。当時の荒尾市は三井関係に勤める人の子弟がほとんどで、荒尾一、二、三中学ができました。周辺部に学校がないからというので本校ができました。当初校区は広いのに生徒数は少ないという学校でした。第一から第三中までは千数百名というのに、本校は400から500名という小さな田舎の中学校という感じでした。ところが八幡台や桜山に新興住宅ができ、他校は生徒数が減少しているのに、逆に800名を越えるまで増えました。現在の在校生は615名です。

有明高専は交通の便は不便ですが、理数系に強い生徒は有明を希望します。

教育方針について

方針として“学校は生徒が自己表現のために、安心して学び、楽しく、真剣に活動する所”と言ってきました。おかげさまで生徒達の表情が明るくなってきたし、職員室での教員にも笑顔が見られるようになりました。

生徒会活動などについて

教育方針ともからむのですが、自分達で考えて、自分たちで解決していく力をつけるよう努めています。それまではやや主体性に欠ける生徒会でしたが、自分達で計画を立て、やれるようになりました。文化祭とか体育祭、時には周辺のゴミ拾いをすると、荒尾市の老人ホームの慰問をするとか、ボランティアの計画も立てています。

昨年は“道徳”的時間を使って社会福祉協議会から車椅子を10数台借用し、車椅子の生活とはどういうものか、2年生全員が体験学習しました。

部活について

荒尾市の中学の中では部活がさかんな学校です。平成10年度、荒尾市中体連大会で、14種目のうち本校が8種目で優勝しました。100名近くが熊本県の夏期の中体連に参加しています。

文化系では美術部と吹奏楽部がさかんです。吹奏楽部では、先日熊本県のコンクールの前に沖縄の「少年の船」（380名）と熊本県の子供達（400名）との交歓会が本校で行われましたが、歓迎のために“沖縄にちなんだ曲”を演奏しました。国体などにも駆り出されたりしています。

情報教育について

パソコンを22台入れていますが、“技術”では当然教えますが、若い先生方は使い慣れていて、他の科の先生も自分で、又生徒達を連れて来てよく使っています。インターネットについては、荒尾市の中学では未だ0ですので、何とか一番早くとり入れようかと思っています。

有明高専について

進学指導関係者にはいろいろ資料を提供していましたが、一般から見れば有明高専とはなんだろうかな、どんなコトしてのかなとわかりにくい面もあるようです。高専は高専としてのねらいはあるのでしょうか、現実としては、本当に将来、理数系の大学、大学院までと考える生徒はさけてしまふかもしれませんね。

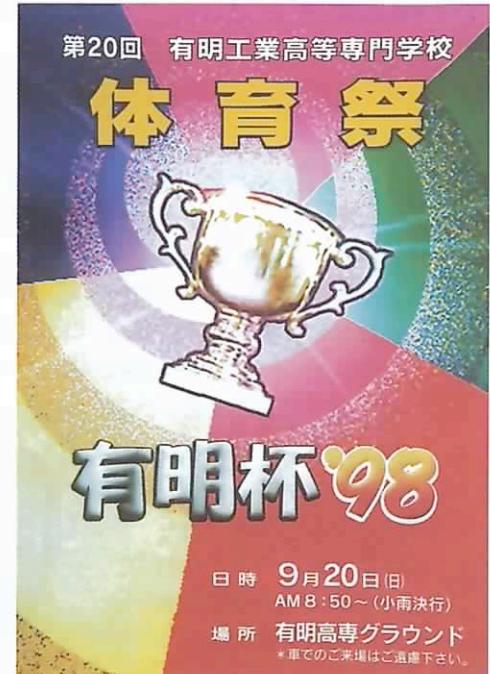
校長室で田畠校長の写真を数枚とさせていただき荒尾第四中をあとにした。

（聞き手 物質工学科 吉武紀道）



第20回 体育祭

平成10年9月20日

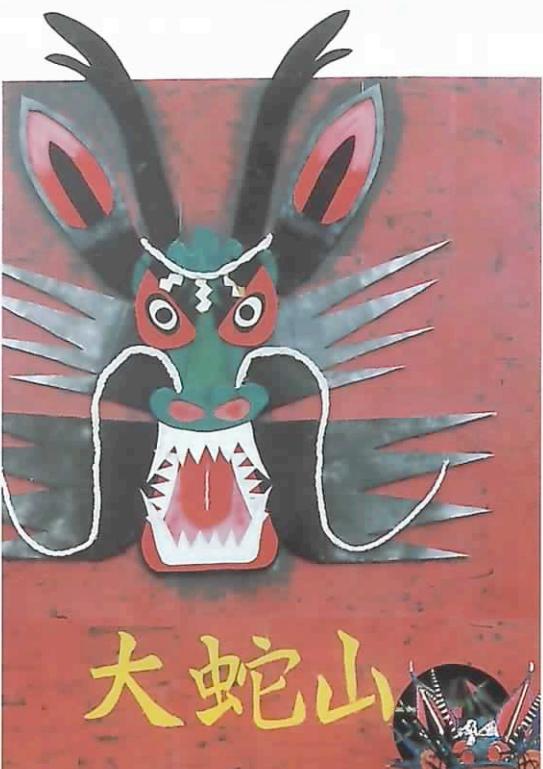
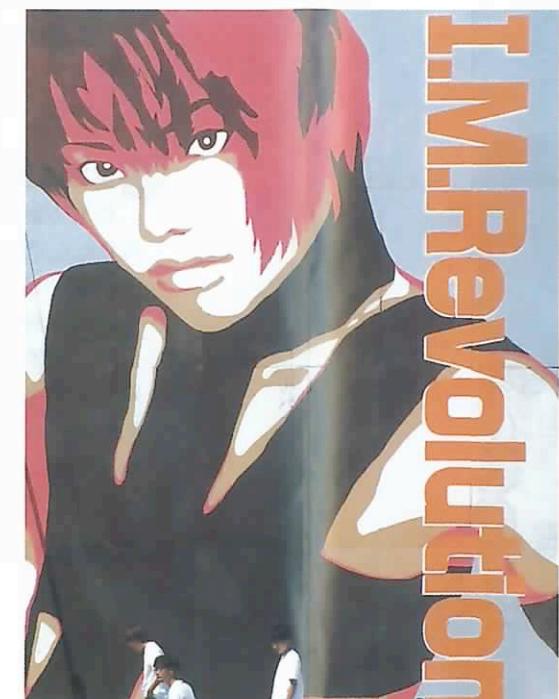


学生会長 5C 永田 和美

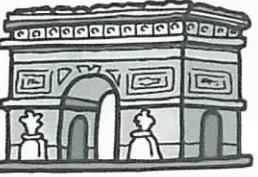
心配されていた雨も、開会式が始まる前にはすっかりあがり、記念すべき第20回体育祭にふさわしい晴天となりました。実行委員の計画不足で進行が遅れることもありましたが、全学生の協力によって、何とか成功させることができました。他の高専にはない、有明の学生のヤル気をこれからも受けついでいってほしいと思います。

体育祭実行委員長 5C 梅木 淳二

9月20日、有明高専全学生がアイデア、力、技を競い合った体育祭。この1日のために注ぎ込んだ学生の力は、永遠の思い出として、色あせることはないと思います。当日は多少トラブルはありましたが、皆さんの理解があって無事体育祭を終えることができました。実行委員、各学科団長、主事の先生方を始め、多くの皆さんのお力添えに感謝いたします。



海外出張報告



今夏11名の先生方が国際会議等出席のため渡航されました。
その中で2名の先生に報告していただきました。



競技説明

- 100m走
各クラス2名による100m走です。トップを飾るに相応しい走者が100m先のゴールを目指して走り抜けます。
- ならんで棒
1本の棒を各クラスより選ばれた5人で持ち、数々の障害を乗り越えゴールに向かいます。華麗なリンボーダンスは必見です。
- むかでりレー
この競技は一本のロープに5人・10本の足を結び付け、全員が心を一つにして、ゴールを目指してむかでのよう走ります。
- 玉入れ
各学科45名の女子が制限時間1分30秒で、違う学科の団長が背負ったカゴに入れた玉の数を競う競技です。
- 縄引き（男）
各学科80名による縄引きです。制限時間30秒で縄を引き、力を競い合います。
- 縄引き（女）
I・C・Aの3学科の女子各70名による縄引きです。近年、活発化しつつある女子学生パワーを競う競技です。

・クラブ対抗リレー
予選を通過した、5つのクラブで行われるクラブ対抗リレーです。各学科団長にくじを引いてもらい、くじに書いてある部活動の順位が各学科の順位となり、得点に加算されます。神を味方につけた学科はどの学科でしょうか！

・借り人競走
各学科25名ずつによる借り人競走です。もしかしたら心ときめく運命の出会いがあるかもしれませんこの競技。お楽しみに。

・ツライアスロン
なかながハードな障害物競走です。ゴールしたときには、ひとまわり成長しているかもしれない選手達にご期待下さい。

・騎馬戦
各学科20騎、80名による騎馬戦です。大将落としの1本勝負。各学科の猛者達が男の意地をかけて戦います。

・学科対抗リレー（女）
各学科の女子5名による学科対抗リレーです。各学科のパワーみなぎる女子学生の走りっぷりをどうぞご覧下さい。

・学科対抗リレー（男）
各学科男子20名による学科対抗リレーです。各学科の選び抜かれた男達が学科の勝利と名誉をかけて突っ走ります。



成績

総合優勝 建築学科
敢闘賞 機械工学科
応援賞 建築学科



『タイの印象』

建築学科 山下 俊雄

バンコクの町の朝は早く、4時ごろ市中心部へ向かうバスが走り始め、6時には交通渋滞が始まる。そのころ山吹色の袈裟をまとった僧侶が大きな鉢を抱えて托鉢をして歩き回る姿が見られる。家の前には、僧侶たちが来るのを待ち構え、鉢の中に食べ物を入れ感謝の意を表すワイ（合掌するタイ式のあいさつ）をする人々の姿がある。仏教国タイを象徴するような風景である。

タイの仏教は戒律の厳しい小乗仏教であり、得度式を受けて僧侶となったものは虫一匹殺すことも許されず、自分が食べるために田畠を耕すことすら禁止されている。そのため僧侶は托鉢に出かけ日々の糧を得る。しかし、托鉢で功德を積ませていただくのは施しをする方である。功德を積む一番の方法は自分自身が僧侶となることで、今もタイの男性は一度は僧侶となる習慣がある。僧侶になれない女性は自分の息子や兄弟を出家させるか、托鉢に応じることで功德を積む。苦しみが少なく、情愛に恵まれ一生を幸福に過ごす人間として、国王はその最たる存在で、前世より善行を積んだからこそ、タイ社会の頂点に君臨する存在となったと考えられている。これを象徴するのが国民と仏教と国王を表すタイの3色の国旗である。

1992年から4度にわたりタイを訪れる機会を得た。道路交通騒音に対する住民反応の国際比較というテーマで熊本大学と室蘭工業大学、北海学園大学と共同でタイのソンクラ、コラート、バンコクで社会調査を行った。調査の報告は別の機会に譲るとして、タイで最も印象深かったのが托鉢をする僧侶の姿とバンコクの交通渋滞であり、タイの今と昔が同居する姿であった。



調査を終え別れを惜しむタイ・日本人スタッフ

『ワールドカップ優勝国「フランス」』

一般教育科 酒井 健

1998年7月12日。フランス全土が熱気にあふれていた日だ。この日、私は現地時間の夕方5時にパリに到着した。ここで私を迎えてくれたのは、ワールドカップのTシャツを着た数え切れない程の老若男女。顔にはフランス国旗の装飾を施し、大小さまざまな国旗を振りながらみんながひとつになって大声で歌っている。はっきり言って度肝を抜かれた。凱旋門前の広場には、「ビービーッ」と、騒音とも思えるほどのクラクションを鳴らした車が所狭しとひしめき合い、それらの車から身を乗り出した人たちが、行きかう見ず知らずの人たちと握手をかわし喜び合っていた（写真）。

今回フランスを訪問した目的は「強相関電子系に関する国際会議」に出席し、自分の研究を発表するためである。この国際会議には世界各国から、この分野の研究者が約600名参加した。国際会議の中身については書けばきりがないので省略する。ここでは、このような国際会議に出席することの意義をいくつか述べてみたい。1つ目は何と言っても世界の第一線で活躍している研究者と肩を並べてdiscussionできることであろう。それを通じて、様々な新鮮とも言える物の見方、考え方を発見できるところにある。2つ目は、学問の話だけにとどまらず、それぞれの国の伝統、文化、政治、経済に至るまで、ふだんテレビや新聞などでは得られない、生の情報が聞けることだ。3つ目は、banquet（懇親会）を通して、いろんな国の研究者と知り合い、これを機会に、研究を通したnetworkができたことだ。「物理」という学問を通して、世界のいろいろな人々と交流できることは本当にすばらしいことだと感じた。



凱旋門前広場にて



公 開 講 座



◆1級建築士受験講座

期 日：平成10年6月16日～27日

対象者：建築技術者

参加者：13名



◆やさしい化学実験講座

期 日：平成10年7月23日～24日

対象者：中学生

参加者：31名



◆インターネットにチャレンジ

期 日：平成10年7月28日～29日

対象者：中学生

参加者：83名



◆コンピュータリテラシ講座

期 日：平成10年7月29日

対象者：市民一般

参加者：3名



夏期実習を終えて

4 M 諫山 秀一

僕は、埼玉県の上尾市にある末吉工業株式会社で、工場実習を行いました。

末吉工業は、日産ディーゼルの関連会社で、ガソリンタンクの製作を行い、その他には、医療用の焼却炉などの特別な製品も造っていました。製品のほとんどが大型のもので、ラインに入っての作業は思っていた以上にきつい実習でした。

実習では、学校で行っている授業（機械実習）以上に安全性について考えられていることに気づきました。

工場内には、いろいろ危険なものがあるので、それで怪我をしないように整理、整頓がされ、危険な場所がわかりやすくなっていました。それに、工場の人から怪我をした話を聞かされ、より一層安全に気を付けることができたと思います。また、工場実習では学校でされていないことを体験することができました。

製品に不良が生じた場合、それに対応するためにチームが組まれ、僕たちもそれに入ることができ、どのような対処を行うのかがわかりました。

タンクの溶接では、大部分が、モートマンでの自動制御により行われていましたが、やはり、細かい所は手作業で行われて、完全な自動化というものはむずかしいと思いました。溶接されたタンクは何度も気密試験が行われ、不良が生じないように考慮されていました。不良が生じた場合は早い対処がとられ、また試験を行い、完璧に製作され、次のラインに流れされました。製品としてタンクが会社から出され、その後、不良が生じた場合には、会社全体の信頼を失なうことになるので、このように行われていることがわかりました。

工場実習を行い、学校では学べないことをたくさん学ぶことができたし、社会人になるという心構えができたと思います。工場実習を終えて、感じたこと、体験したことを来年の就職活動に活かしたいと思います。



タンクの溶接、がんばっています

実習を終えて

4 E 田中 克史

僕はNHK佐賀放送局で約一週間の実習を行った。

実習内容は、放送技術について学び、企業の雰囲気を体験することである。

実習以前僕は実習を行うことにそれほど目的を持っていなかった。つまり意味がないと考えていたのだ。

しかし、実習を終えた今、実習を行ってとても良かったと思っている。特に企業の雰囲気を体験できたことが非常にためになった。

企業という集団の組織でありながら個人の責任を明確にしその責任を全うさせる。また、若い人にもきちんと役割を与え必要以上のアドバイスをしない。そして、絶えず確認を行い、チームワークを守り、めりはりをつけて動く。このようなことが意識することなく自然に行われている。僕はこのような雰囲気の中で仕事が行われていることをうれしく思った。学校生活では体験できない緊張感のある生活がそこでは行われていた。

また、放送技術については教わったけれど詳しくは理解できなかった。一週間という短い期間であるから無理もない。しかし知識が乏しいというのははっきりとわかった。高専生活で学んでいることはほんの一部であり、基礎であること、そこからは自分の力で知識を広げていかなければならないこと、それらを再確認させられた。

僕はこの実習を通して将来企業で働くことについて楽しみを持つことができた。そしてまだまだ学力を向上させる必要があることもわかった。5年間という長い期間の約6割を終え、高専生活での目的を失いつつあった僕にとってこの実習は今後の学校生活の目標をはっきりと示してくれた大切な一週間であった。



左から3人が筆者

ク ラ ブ 紹 介

登山部とフォークソング部の紹介です。



登 山 部

5C 笠間 敏博

笠間 先生、どうして山に登るんですか。

水室 “そこにそれ（山）があるからだ”と応えたのはエベレストで遭難したマロニー、ぼくもそれに近いものがあるよ。例えば、久住山に登った帰り道、阿蘇の根子岳が見えるところがあって、よく見ていると根子岳が“おいで、おいで”をしているんだよ。

笠間 先生、それってほとんど病気じゃないですか。

水室 病気かもしれないが、非常な苦闘の後に得る成功と満足感が次の山に登りたいというチャレンジ精神を生むんだよ。

笠間 確かに、ぼくも登っているときは、どうしてこんなにきつい思いをしなければならないんだ、と思います。でも、登ってみるとその疲れが、あっという間に消えて次の山に登りたいという衝動にかられます。ところで、登山がほかのスポーツと違うところはどんなところですか。

水室 弱者に対する思いやりの気持ちが優先するところかな。すべての行動や決断は最も弱い者、調子の悪い者を基準として決めるからね。

笠間 それで、いつもすぐへばる○○君を中心に行動するんですね。現在10名ほどの部員がいますが、何か、部員への要望はありますか。

水室 山に来てよかった、と思ってもらえばいい。そこに至る道程が苦しければ苦しいほど栄光に満ちて、喜びもひとしおだと思うね。ところで、平成10年10月10日10時10分の登山の後の企画は考えているんだろうね。

笠間 はい、久住山で星を見るという計画を立てているところです。もう少し努力して山の良さをより多くの人に伝えたいと思っています。



フ ォ ー ク ソ ン グ 部

5I 金児 誓二

はじめまして。私たちフォークソング同好会の紹介をします。現在、部員は4・5年生だけで6名と少ないですが心の知れた音楽仲間です。

普段は、一週間に一度、部室で演奏練習しています。高専祭や小文化祭では、生演奏をするために、数ヶ月前から計画を立て、選曲や音合わせなどをし、直前には、毎日合同練習を一生懸命しています。また、このクラブとは別に個人的に他のバンドを組んでいる人も2・3人おり、ライブでの演奏前などには部屋でも個人練習をしています。

楽器としてはフォークギターに限らずエレキギターも使っています。3年前には、部屋にドラムセットも置いていましたが、先生方の指導により撤去しました。最近ではエレキギターによる練習がほとんどです。練習する曲目はほとんどが部員の好きなロック系です。

このクラブは、部活と言うよりは、趣味でやっていると言う感じです。そのため、普段は練習時間や練習内容は、はっきりと決めてなく、メンバーが何人か集まれば自然に練習が始まります。

今年の小文化祭でも、生演奏する予定です。この記事を読んだ人はぜひ聞きに来てください。5年生の部員は、高専での最後の演奏となります。そのため、がんばって練習しています。

このようなクラブですが、後を受け継いでくれる3年生以下の部員がいないのが気がかりです。皆さん今でも新入部員を募集しています。小文化祭のときでも気軽に来て下さい。

英語弁論大会

2C 三浦 志穂

「九州地区国立高専英語弁論大会」は、今年第31回を迎え、7月23日に、ここ有明高専で開かれました。

本校からは、2Cの古庄さんと私がレシテーションの部に、4Mの時吉さんがスピーチの部に出場しました。

今年のレシテーションの課題文は、登場人物の感情を理解したり、表現したりするのがとても難しく、夏休み中も練習に励みました。

大会当日、他校の出場者の表現の仕方や解釈に注目し、そのレベルの高さに驚き、私は緊張していました。去年の2位の成績を更新し、今年こそは優勝をと強く願い本番に挑んだものの、練習中にはなかった失敗もあったりしてとてもショックでしたが、気を取り直して最後までがんばることができました。結果は、予想外の3位でした。失敗は悔やまれますが、嬉しかったです。

この大会から、私はたくさんのいい経験をしました。学ぶことも多く、また私に何が欠けているのか見つけることができました。この事は、次の大会に生かされると思います。最後に、私達のためにいろいろご指導して下さった先生方に心から感謝いたします。



ホンダエコノパワー

第14回ホンダエコノパワー燃費競技九州大会が8月2日（日）HSR九州で開催された。この大会は、市販車、一般、高等学校、大学・短期大学および専門学校の5クラスに分かれており、本校は専門学校クラスに参加したが、参加総数は70台であった。

当日の車検は1回でパスしたが、スタートを待つ間にエンジン部にトラブルが生じた。しかし、これも参加者全員で対処し、スタート時間までに処理できた。本校のマシンは一番最後にスタートし、4周までは3M山下君のドライブテクニックのもと順調にきたが5周目に入ったところで駆動部のチェーンが巻き付き、リタイアする結果となった。

3M山下、横山君および下級生の諸君が夏休みに入ってからマシン製作にがんばったが、製作期間が短く作り上げただけの状態であった。来年参加するときには、早くから製作を始め、調整が充分にできるようになることを期待したい。

（機械工学科 猿渡真一）



柳川ソーラーボート大会

5M 坂本 武司

私はソーラー発電に関する卒業研究の一環として8月1～2日に行われた柳川ソーラーボート大会に参加しました。4月に卒業研究のテーマが決定した直後から、最速のボートを目指して試行錯誤を繰り返しました。大会用ボートの製作を行うようになった夏休みからは、朝の10時から製作を開始し、翌日の朝6時まで行い、4時間の休憩後、製作を再開するという実習工場に棲みつくような生活で大会の前々日にボートが完成しました。早速、学校の近くの諫訪川で最初の試走をしました。しかし、思うような速度が得られず、学校に持ち帰ってスクリューを徹夜で作り直しました。いよいよ大会前日、会場で試走しましたが、いまひとつ速度が上がりず、スクリューを徹夜で再度作り直しました。大会当日は、他のチームが最新の市販スクリューで参加しているなか、自作のスクリューではあまりに不利に思えました。

結果は周回レースはバッテリー切れのためリタイア、スラロームレースも思うようなタイムはでませんでした。しかし、仲間と一緒に徹夜で作業したことは、よい思い出となりました。



X 好評ロボットJリーグ

去る8月2日（日）、大牟田文化会館小ホールで「ロボットJリーグ有明ステージ'98」が開催された。大牟田、荒尾市内の小中学校18校32チーム133名が参加し、自分たちで製作したロボットの性能をサッカーゲームで競った。これは、最近理科への興味が薄れているといわれている小中学生に、ロボットを製作することを通して物を作る楽しさや喜びを知ってもらうための企画で、1995年から始められ、今年で4回目を迎えた。7月21日から31日までのうちの9日間、本校岱明寮の食堂で、機械工学科の教職員と学生の指導の下にロボット製作が行われた。

大会では羽山台小学校Bチームと延命中学校チームで決勝戦が行われた。遠いところから強いロングシュートを何本も放つ延命中学校チームに対し、確実にチャンスを物にした羽山台小学校チームに軍配が上がった。

今大会では、中学生のロボットへの工夫が見られ、中でも延命中学校のボールの取り込みとシュートは評価された。



留学生を囲む会

今年も2名の新しい留学生が本校に入学した。マレーシアからジュナイディー・ピン・ハムザ君（3E）とラオスからサヤサン・ワンマコンさん（3C）である。彼らの歓迎と留学生、関係教職員・学生の親睦を兼ねて、去る6月5日本校大議室にて「留学生を囲む会」が催された。民族衣装をまとった二人の自己紹介や自国の紹介、吹奏楽部の演奏などで、参加者一同楽しいひとときを過ごすことができた。

編集後記

台風6号の進路に気をもみましたが、好天に恵まれて、第20回有明高専体育祭は日頃の成果をいかんなく発揮でき、とても素晴らしい体育祭でした。有明高専では今後の予定として、小文化祭（10月28日）があり、引き続き、わくわく科学体験「ジュニアサイエンスフェア」が11月8日(日)に開催されます。皆さんもぜひ有明高専にお出で下さい。スタッフ一同お待ちしています。

有明高専だより 第96号
平成10年10月16日
編集・有明高専広報委員会
発行・有明工業高等専門学校
〒836-8585
大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8611